

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100089		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家仁川		
所在地	宝塚市鹿塩2-13-19		
自己評価作成日	令和6年3月15日	評価結果市町村受理日	令和6年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosyo_index
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和6年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阪急宝塚線、仁川駅から徒歩6分、閑静な住宅街の中に位置しており、近くにはのびのびと散歩ができる公園や、春秋には桜や紅葉が彩る阪神競馬場が徒歩圏内にあり見ごたえがあります。施設整備も充実しており、セキュリティ面も含め、ご利用者が安心・安全で暮らしができるゆとりある運営を行っています。玄関には四季折々のお花や植物を絶やすことなく植えることで清潔感や綺麗さをモットーにしております。自立支援に重点を置き、日常を飽きさせないように外出行事の強化を図っております。そして一人ひとりの生活習慣を尊重し、心のままに充実した生活が送れるよう支援させていただいております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宝塚市の閑静な住宅街にあり、築10年以上建っているとは思えない程、外観、外構を綺麗に整備している。事業所内は隅々まで清掃が行き届いており、清潔感があり、玄関や廊下、壁面などもシンプルながら綺麗に整えられている。また、フロア内は、オープンキッチン、オープンな職員詰所、広く家庭的なリビング、利用者一人ひとりに合わせた居室があり、全てにおいて心地良い空間が作り出されていた。

職員は、利用者の自立に向けた取り組みに真摯に向き合っており、利用者と一緒に食事を作ったり、洗濯物たたみなど生活支援を行っている。また、積極的に季節行事や外部行事に参加・実施しており、利用者が四季折々のイベントに参加できるようになっている。さらに、外出にも非常に力を入れており、個別でカフェ巡りや買い物支援を行っている。

管理者は強いリーダーシップとマネジメント能力を発揮しており、利用者や職員が温かな空間の中で、穏やかに笑顔で過ごされていた。ヒアリングや現場見学などから、職員満足度が十分に高いことが伺われ、職員一人ひとりが利用者の思いや意向を傾聴しながら、手厚いケアを実施しようと努めていた。本社主導でDX化が進められており、事業所においても、業務マニュアルを整備し、質の高いサービスが提供できる整備されている。サービス向上のため、日々振り返りを行い、数字には表れない利用者本位の支援に事業所を上げて取り組んでいた。今後もグループホームのパイオニアを目指して取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念等を明確なものとし、玄関にも家族、面会者、職員が分かりやすいよう掲示している。また社内コンプライアンスの読み合わせを毎日実行している。	「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる」を今年度の法人本部の支援目標に掲げ、ポスターを玄関に掲示している。経営理念についても、随時閲覧できるようになっている。全体会議で、理念や目標に対する指針や目標を議論し、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域で開催されている近隣のゴミ拾いやどんと焼き等行事に積極的に参加しています。	自治会に加入しており、ゴミ拾いやどんと焼きなどの行事にも積極的に参加している。敷地内駐車場でケーキ販売店を呼び、地域との交流を図ろうとしている。利用者が地域との繋がりが感じることができるよう、定期的に思い出の場所巡りやカフェ巡り、ドライブなどを実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を軸に、介護相談員訪問等、情報を共有し、認知症に対する理解を深めて頂いており、助言も頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告内容について、外部より出席頂いた方から、助言を頂き、避難訓練の円滑な方法や感染症の対策、高齢者に適した外出先等、今後の運営に生かせるものばかりです。	運営推進会議には、利用者、利用者家族、市役所介護保険課、地域住民などが参加しており、家族は順番制で1家族ずつ参加してもらっている。地域住民からは、地域の課題や地域活動への招待、市役所介護保険課からは、アドバイスを中心に意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宝塚市内の介護保険事業所連絡会に参加し、事業所の取組み等報告し合い、共有し合っている。2ヶ月毎に介護相談員の訪問もあり、情報の共有を行っています。	宝塚市の介護保険事業所連絡会に参加し、市から情報共有や取り組みについて報告・共有をしている。最近では、ライフ(科学的介護情報システム)に関する取り組みについて、報告があがっているが、現状、グループホームでの本格的な活用は難しいという判断になった。介護保険課担当者とは、定期的にやり取りをメールでしており、協力関係を築くことが出来ている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義においては、法人本部主導の研修で必須項目となっており、全職員が受講し理解を深めている。また、毎月のサービス担当者会議においてケア内容を検討している。	法人本部主導のインターネット完結の研修を実施している。職員が空いているタイミングで受講することができ、受講率は100%である。管理者は、研修報告書の内容やチェックリストの結果を見て、面談を実施しており、振り返りを行っている。また、事業所独自の「ワンポイント研修」を実施しており、本部研修を補完する形で、職員自ら調べ、関心を持ち取り組んでいる。防犯の都合上、玄関ドアは施錠されているが、外出の機会を多く持つなど、利用者の思いを汲み取り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人本部の研修メニューに年2回、組み込まれており、理解を深めると共に、月1回の会議の中で、毎月話し合い、事例検討会を行い、確認し合っています。	法人本部主導のインターネット完結の研修を実施している。身体拘束の研修と同様に受講率は100%である。管理者は、他施設での虐待事例を定期的にカンファレンスに上げており、全職員で振り返りを行っている。また、管理者は、ストレスから虐待に繋がるケースも多くある為、積極的に職員の話に耳を傾け、ストレス緩和に繋げている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている方もいらっしゃるの、職員も周知理解しています。	現在、成年後見人制度を利用している利用者があり、職員で理解を深める機会になった。法人本部主導の研修においても、カリキュラムに入っており、毎年知識を深める機会が設けられている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居後の不明点や心配事も、都度具体例を挙げながら、説明して理解を得ている。重度化にかかる指針においては、最も重要視しており、対応の内容を時間を割いて、納得して頂いている。	本社の受付センターを通じて、適宜見学会を開催している。入居後がイメージしやすいように、ホームの案内だけでなく、行事の写真等を用いて丁寧に説明している。入居前に管理者は、必ず利用者と面会するようにしており、十分に説明を行うようにしている。また、家族に対しても、重要事項説明書や看取りに関する同意を説明し、納得してもらった上で、契約している。なお、看取りに関する同意等は適宜変更が可能であり、利用者・家族のことが大変よく考えられている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客満足度調査を年に一度実施。毎月、家族宛に、近況報告を手紙にて行い、来訪時にも対話を持つように心がけている。	運営推進会議には、利用者、利用者家族が発言しやすい環境であり、意見をもらっている。ご意見箱を設置しているが、今まで意見が入ったことはない。毎月の写真付きお便りの配布などを実施することで、利用者家族とのコミュニケーションが図れており、意見が出た際は適宜、家族の意見を反映させるよう努めている。本社主導の顧客満足度調査が実施されており、事業所へフィードバックされている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従業員満足度アンケートを年に一度行うと共に、フロア会議、ミーティングを通じて意見交換を行っている。	本社主導の従業員満足度調査が実施されており、事業所へフィードバックがなされている。フロア会議やカンファレンスなどで、本社からの通知などを共有しており、意見交換を行っている。管理者は、適宜、職員と面談を行うようにしており、職員から出たアイデア(外出やイベント)を実施できるよう助言・反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季・冬季休暇、有給休暇の取得にも積極的に取り組み、残業においても必要最小限にとどめ、条件・環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに適した、研修が法人本部主導で行われ、参加すると共に、認知症介護実践者研修を筆頭とした外部研修にも、定期的に該当者に受講をしてもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH、訪問、居宅とさまざまな事業所形態の同業者と接する機会があり、定期的に会議・勉強会を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの時点で、本人が今現在、最も不安なことを聴取し、家族様の要望を加味した後、ケアプランに反映させ全職員が共通認識として理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、家族様の立場から、不安心配因子を抽出し、実現可能なプランに反映すると共に、入居者の状況に変化が見られたら、その都度相談を持ちかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と共に、現状把握を行い、今必要な支援を見極め、即時対応している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々に応じた対応に努め、本人の出来ることを役割とし、職員・利用者は喜怒哀楽を共に支え合い、家族同様に信頼関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、入居者に変化が見られた時には、家族様から、入居前の様子や既往歴、生活のパターン等を聞き取りさせていただくことにより、対応のヒントを頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・知人の来訪も多い。コロナ期間中も、文通でのやり取りや、LINE面会等で関係が途切れないよう支援に努めました。	利用者の馴染みのある場所へ個別対応で、外出している。親戚や親族は毎日1家族が来所するペースで来られており、開かれた事業所となっている。また、新入居時は、知人などの来所者が多くなるが、必ずキーパーソンに確認を取ったうえで、面会してもらうようにしており、配慮がなされている。家族と外出や昼食を一緒に食べに行く、知人との喫茶店での面談を認めているなど、利用者本位で関係支援がなされている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席次には十分に気を使い、円滑に生活を営める様支援を行っています。また職員が間に入り会話できるよう配慮しています。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に利用されている施設・病院等があれば、現状をさし当りのない範囲でフォローし、現状把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の日常会話を大切にしており、本人の言動から希望や意向の把握に努め、都度対応できるよう努めている。	比較的自立度の高い利用者が多く、本人の意思がはっきりしており、家族も含めての希望や意向が聞き取りやすい。日常的に利用者との会話も多く、外出支援などに繋げている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や生活環境を聞き、できる限り今までの生活スタイルが継続的に見えるよう努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の過ごし方、心身状態の把握は記録に書きとめ職員間で共有し、個々人が安心して日々生活が送れるよう、努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族の意向も取り入れている。同時に本人の能力・健康状態・リスク等を総対的に判断し、どの部分で優先順位をつけるかを本人や家族と相談しながら、無理のないたのしい生活が送れるよう計画作成に取り組んでいる。	モニタリングは主にリーダーが実施している。カンファレンス開催に当たっては、日常的な様子を把握している職員の意見を聞き取りながら介護計画作成に生かしている。個性性を重視した介護計画の内容となっている。	職員がモニタリングを実施することで介護計画作成に参加してはいかがでしょうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には一日の生活の様子や支援の実践結果を記入し職員間で共有している。日常業務やミーティングで実情や意見を話し合い参考にして計画の見直しに活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに出来るだけ答え、散歩やレクリエーション、クラブ活動等、個々に楽しめるよう個別ケアを実施し取り組んでいる。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを通じて地域の一員として楽しむことができるように支援している。地域活動の一環としてゴミ拾い等、清掃や行事の参加に積極的に参加できるように支援している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科協力医による月2回の往診。また24Hのオンコール体制を確立し、緊急時も提携病院に手際よく、受診・入院が出来るようになっている。協力医以外の受診も、家族様を主体に、行うことが出来ている。	契約時にかかりつけ医についての説明を行い家族が選べるようになっていく。概ね協力医の訪問診療を選んでいく。看取り事例が数件続いてあったがオンコール体制とともに協力医の指示によるスムーズな体制が整備されており問題なく臨めた。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回、訪問看護ステーションより、看護師が来訪し、健康チェックや日常的なケア方法等の相談も行っている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者に対してのアプローチも、家族様の思いも配慮に入れ、面会を行っている。入院→退院→帰居に至る中で、提携病院との連携も密に取り、現実即した、情報共有を行っている。	入退院事例は最近はなかったが、入院時には病院への面会制限などもあるなかで地域連携室との連絡はこまめにとるよう心がけ実践していた。家族の協力もあり情報共有は良好であった。退院前カンファレンスなどにも積極的に参加した。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた方針においては、入居契約時に家族の意向をヒアリングし、実際終末期を迎える際には、家族・医療関係者・職員等が連携し、最も望ましいケアを実践できるようにしている。	重要事項説明書の中で重度化・看取りについての指針があり意向確認を行っている。実際の看取り期に際しては都度、主治医からの説明が受けられる仕組みがある。点滴の有益性なども主治医からの丁寧な説明を受け、家族にとっては安心と納得を得ることができている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時の対応、事故発生時の対応においては、マニュアルもあり、救急車要請時の手順等の掲示物を、事務所内に掲示し、その時に備えている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練も、日中・夜間の両方を想定した訓練を実施している。地域住民の方にも助言をいただき、参考にしている。	消防署参加と自主訓練を年2回実施している。避難場所の確認や施設内消防機器の点検なども実施している。水消火器の実演やAED訓練も行った。	運営推進会議で自治会を通じ、近隣住民の参加を募ってはいかがでしょう。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人本部において、接遇・認知症ケア・人権研修を行っている。羞恥心や尊厳に関しても、職員が共通認識を持ち、支援を行っている。利用者一人ひとり思いや性格、生活歴を把握したうえでの言葉かけや対応を行っている。	法人本部による年間研修計画があり職員全員が受講する仕組みがある。(Cラーニングシステム)管理者の独自作成のワンポイント研修があり、日常生活の中で気になることをリアルタイムで職員間で共有し、短時間研修として学ぶ仕組みができていく。(職員が講師となり実施している)。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で、さまざまな自己決定を、強いることなく、声掛けを行う中で、その人の意思を汲める状態をつくりだし、促している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者の個性や能力を理解し、そのうえで声掛けを行い、環境が許す限り、意思に合った生活を支援し、行ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や室温に応じ、衣類も自分で選択できる方は好きな服を着て2か月に一度は訪問理美容も利用して頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状況に応じて食事形態を選択すると共に、調理・盛り付け・下膳、食器洗い、拭き等も職員と協働し、行っている。また、季節や行事に応じた、出前等も楽しみの一つになっている。	職員と利用者が手作りしている。利用者の身体状況に適した形態にも対応している。月に1回はテイクアウトや弁当・外食を取り入れている。食材の余分がある時にはおやつに転用するなどの工夫をして臨機応変に食事作りを楽しんでいる。	おやつ作りで、全ての過程を利用者に任せる取り組みを今後も継続されてはいいかがでしょう。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録に残し、体調管理に留意し、食事形態も入居者の状況に合わせて刻み食やミキサー食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月4回の訪問歯科による、治療・口腔内チェックを行う。又自力で歯磨きを行うことが難しい入居者には、口腔ケアシート等も利用し、清潔保持に努めている。又職員は歯科医師より月1度の指導を受けている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンや特性を把握し、トイレ誘導を行い、日中は快適に布パンツで過ごして頂けるよう取組み支援している。	排泄表もあるが、職員の意識が高く保たれており、利用者個人個人の特性把握が出来ている。段階的にパッドの併用もあるが、布パンツへの移行が進みつつある。排泄表に代わりタブレットでの管理が常態的に取り入れられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者個々の排泄パターンを把握し、食事や水分量に留意すると共に、適度な運動、生活リズムを作り、自然排便を促しています。必要時には、便秘薬も適切に使用することにより、快適な生活を送って頂けるようにしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則週2回の入浴を基本として、入浴前にもバイタル測定を行い、体調を確認し、また、シャワー浴の場合も足浴を行い、入浴剤や季節湯を用い快適な入浴を実施できている。	午前5名、午後4名の入浴パターンとしているが利用者の気分や状況に応じて柔軟に対応している。基本的には決して無理強いをしないことを守っている。自立度の高い利用者も多くいるので本人希望に沿った入浴支援ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分を考慮したうえで、日中においても、短時間の臥床を行ったり、夜間も入居者個々の睡眠パターンに合った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局との連携を密にし、変更点などがあれば、適時申し送りを行うことにより、現在服薬している薬の理解に努めている。服薬時も、誤薬を防ぐために、複数名で、服用前の確認を行い、薬の飲み込みも見届けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の趣味嗜好品や身体状況等を考慮したうえで、レクリエーションを行い、カレンダーや壁紙制作等、生活に密着したもののつくりをしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週3回程度のコープまでのお買い物や、週3回程度、個別での対応で近隣の公園まで散歩に出かけています。ホーム内にある庭での家庭菜園や花への水やりや雑草抜きなどの手入れをして頂き、中庭でおやつを食べていただくなど、、、それぞれの入居者の思いに沿った支援を行っている。	入浴のない日は外出支援の日と位置づけ、ドライブや買い物などの活動を支援している。近隣のスーパーへの買い物や公共交通機関を使い、利用者自身が切符を購入するところから同行支援して大きなショッピングセンターまで足を伸ばすこともある。利用者と相談しながら本人の出来ることや思いを実現できるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金の中で、日用品を中心に購入している。その際は、可能な限り本人に支払いを、見守りの元、して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い等の作成を入居者自らが行き、外部との交流を図っている。また、フロアにタブレットを用いて、家族様の希望に応じ、ライン面会を楽しんで頂いている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同制作した季節の壁飾りや行事の際のスナップ写真等をフロア内に掲示し、季節や時間の経過を楽しんでもらっている。ペランダを利用した外気浴も楽しみの一つである。	共有空間としてはやや手狭な印象ではあるが大きなガラス戸を開けるとデッキになっており、洗濯物を干したり草花の水やりが出来るようになっている。壁面には利用者作成の季節の行事にちなんだ作品や習字作品が掲示されている。利用者の笑顔の写真が多く貼られており、見るものは思わず笑みを誘われる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にあるソファーを利用したり、入居者同士の居室を行き来したりと、様々な憩いの場所を利用されている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの家具や衣類の持ち込みをして頂いていると共に、自室にある洗面台を利用して頂き衛生面でも安心である。ホームでの活動を撮影した写真も随時UPしている。	各居室は洗面台・ベット・クローゼット・カーテンが完備されておりカーテンは居室により色が異なる。拝見した部屋は写真立てや小物も全てが本人の好みのピンクで統一されており個性が溢れていた。馴染みの家具やチェスト・椅子の持ち込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ回りを中心に、手すりも設置しており、各居室にはペンダント式のナースコールも設置している。自立歩行のために安全かつ安心して生活を送れるよう動線を配慮し工夫している。		